

教育研究所での 研修

研究所では、年間5回の所長講義と研究所の所員・研究員で行われる1年次テーマ研究会、そのテーマ研究会に向けた研究員同士の学び合いの場であるミニテーマ研究会などを行っています。

また月に1回、現場に戻った2年次生の実践に学ぶ2年次テーマ研究会にも参加して学び合っています。

3年目の研究生は6月から7月にかけて、それまでの2年間の研究や実践をまとめ、県内4会場をまわって研究発表会を行います。

所長・特任所員講義

教育の専門家である先生方に「教育」について様々な視点から自身の「教育」を見つめ直す機会があります。



▲講義使用テキストおよび参考資料▲

この他にもオススメの本が沢山あります是非、探してみてください！



『現代の教師論』/『子どもを「人間としてみる」ということ』/『「子どもがケアする世界」をケアする』/『道徳における規範とケアの相克』

テーマ研・報告会

研究員の実践してきた授業映像や記録をもとに検討します。

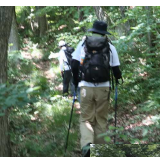
- ・子どもがどのように学ぼうとしているか
- ・子どもがどのように関わろうとしているか
- ・子どもの願いは何か

上記の通りに研究員はレポートを作成し、そのレポートに基づいた検討が行われます。

所長をはじめとした研究所所員、研究員が互いに意見を出し合い、「振り返り」と「学び合い」を通して「子どもが学ぶとはどういうことか」を問い直しながら研究を深めています。



淀川遠足

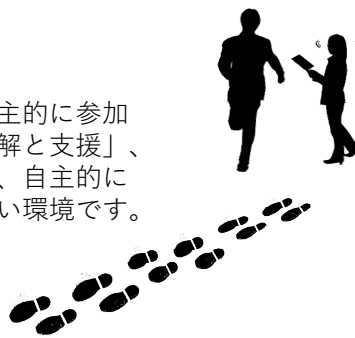


大正時代、長野県師範学校附属小学校の「研究学級」を担任された淀川茂重先生の著書『途上—研究学級の経過—』をもとに、当時行われた真の教育を求めた実践に学びました。

淀川先生の教育の歩みを自分たちでも実感し研修するために、「淀川遠足」と称して、5月に善光寺から頼朝山へ遠足に出かけました。善光寺から往生寺、そして頼朝山へと『途上』の中に登場する子どもがたどった道や景色、出会ったものや考えていたことに思いを巡らせながら、歩きました。

基礎講座・臨地講習への参加

学校が夏休み中など、信濃教育会が主催する基礎講座等に自主的に参加できます。今年度は、基礎講座「発達障がいのある子どもの理解と支援」、臨地講習「信濃の国探訪」に研究生が参加しました。まだまだ、自主的に参加できる講座が多数あり、貴重な研修の場に変な参加しやすい環境です。



土曜公開講座の運営・参加

土曜日に一般参加者を募り、研修を行います。佐伯所長や特任所員の講義をお聞きし、その後参加者によるグループ協議を行いました。



研友会総会運営手伝い・参加

研友会（研究所出身者の会）による年一回の総会の事前準備、当日準備にお手伝いをします。総会の次第に、研究生（1年次）の自己紹介を設けていただいています。3年次生による発表（1名）講演会が行われます。



全県研究会参加

信濃教育会が県下4地区で行っている、信教全県研究大会に参加し、研修を深めます。



外部視察研修

異年齢での学級集団の編制や複式学級の在り方やICT授業に特化した学校等外部校へ視察に行き、自らの教育に新たな考え・取り組みを生み出します。

